

科目名	Vocal Band Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 原田 由佳 田原 佑一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を理解する。	授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。	
2		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
3		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
4		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
5		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
6		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
7		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
8		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
9		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
10		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
11		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
12		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
13		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
14		演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。	実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。	
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習を行う。各ジャンルの課題曲以外の曲も聞く。準備復習研究時間として週4時間行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Vocal Band Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 原田 由佳 田原 佑一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していくためには、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
2		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
3		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
4		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
5		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
6		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
7		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返して行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業を進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	テストと復習	1-14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Dance for Singer 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストのLiveや舞台のダンサー・振付						
授業の学習 内容	曲に合わせてのリズムトレーニング、およびステージングから振り付けまで。						
到達目標	リズムを外さず、ステージ上でのパフォーマンスにぎこちなさを無くす。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括(改善点を知る)	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Dance for Singer 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストのLiveや舞台のダンサー・振付						
授業の学習 内容	曲に合わせてのリズムトレーニング、およびステージングから振り付けまで。						
到達目標	リズムを外さず、ステージ上でのパフォーマンスにぎこちなさを無くす。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。	
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。	
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。	
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。	
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。	
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。	
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。	
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。	
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。	
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。	
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。	
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。	
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。	
14		演習	試験と復習		振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括(改善点を知る)		振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Composition 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	この授業を通して1曲を自分の力で作れるようになる。 楽曲を作るために必要な理論を習得するとを到達目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	基本的なトライアドの理解		12音階のメジャースケールを理解、midiキーボードで演奏できるようにする
2		講義	ダイアトニックコードの理解		12音階のダイアトニックコード演奏できるようにする
3		演習	ダイアトニックコードを使ってコード進行を作る		ダイアトニックコードのみで作られている曲を選別しコード進行のパターンをメモしておく
4		演習	セカンダリードミナント、同主調の取り入れ		セカンダリードミナントのコードワークを理解し、理論的分析。 ノンダイアトニックにおけるメロディーの作り方
5		演習	リレイテッドⅡmを取り入れる		リレイテッドⅡmとセカンダリードミナントの関係を理解する
6		講義	課題曲(Ⅰ-VⅡm-Ⅳ-V)のアナライズ		課題曲(Ⅰ-VⅡm-Ⅳ-V)のアナライズ
7		演習	課題曲のメロディーを変えずコード進行を変更		コードとメロディーの関係性を理解する
8		試験	課題曲のコード進行を変更し探譜して提出		コードとメロディーの関係性を理解する
9		演習	ガレージバンドで課題曲のドラムのリズムパターンを打ち込んでみる。		ドラムのことを調べドラムのパターンを3つ覚える
10		演習	Logicにガレージバンドで打ち込んだデータを入れフィルのループを挿入してみる		ドラムのフィルについて研究し3パターン作成し実際に使ってみる
11		演習	Logicを使いベースとギターとキーボードを打ち込んでみる		各楽器の奏法と音色について調べて理解する
12		演習	打ち込んだデータとヴォーカルレコーディングしたデータをラフミックスする。 EQとコンプレッサーの処理をする		ヴォーカルをレコーディングしてみる
13		演習	マスタリング作業の工程を理解、マスタリングの重要性。		各楽器の音量のバランスを再度調整
14		演習	前期のおさらい		DTMの基本、音楽理論まとめ
15		試験	課題曲を打ち込んだものをアレンジし提出		未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Composition 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚(明るい、暗い)の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを3種類授業外で作成
3		演習	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		試験	ロック、バラード、ポップスの3曲のうちどれかを完成させアレンジしたものを提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方や打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアナライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなどメロディーにどのように関係してるの解釈する
11		演習	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演習	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演習	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演習	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ヴォーカルレコーディング
15		演習	トラックメイカー目線でのミックスを学び色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを実際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Percussion 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラマー・パーカショニストとして演奏歴23年						
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーブに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ:マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコードルを理解し演奏する。	モーダルとコードルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Percussion 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラマー・パーカショニストとして演奏歴23年						
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーブに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	ハンマーオンとブルオフの使用によるグルーブ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハンマーオンとブルオフの使用によるグルーブ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		演習	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーブ的な感じ方の違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーブ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		演習	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーブ的な違いを説明する。		次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーブ的な違いを体得する。(エクササイズ)		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する		次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Self accompaniment 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	脇阪 真 由
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Self accompaniment 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	脇阪 真 由
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Performance for Rock 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	川上真樹
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。						
評価方法と基準	定期テスト、実技60%(後期で学んだ内容を演奏に織り交ぜることができる) 授業態度40%(後期に学んだ内容を説明することができる)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Performance for Rock 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	川上真樹
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	定期テスト、実技60%(後期で学んだ内容を演奏に織り交ぜることができる) 授業態度40%(後期に学んだ内容を説明することができる)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Direction for Song Writing 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の基礎とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の基礎と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	編曲の手順、スコアレイアウト、スコアリーディング、スコアナライズが説明できる。	編曲の手順の復習レポート作成
2		講義	リズムセクション（4リズム）について説明できる。	リズムセクション（4リズム）の復習レポート作成
3		講義	ドラムセットとベース。8分音符リズムと16分音符リズム説明できる。	8分音符リズムと16分音符リズムの復習レポート作成
4		講義	メロディー楽曲の形式を説明できる。	メロディー楽曲の形式の復習レポート作成
5		講義	スコアレイアウトとアレンジのフォームを説明できる。	スコアレイアウトとアレンジのフォームの復習レポート作成
6		講義	トリオアレンジを学び説明ができる。	メロディー楽器+ベース+ドラムスの復習レポート作成
7		講義	中間課題の説明を理解し述べることができる。	中間課題レポート作成
8		講義	中間確認試験と復習	1-8の復習レポート作成
9		講義	4リズムアレンジ(ロック/ポップ、スイング、ボサノバ、ファンク)を習得し解説できる。	4リズムのためのリズムアレンジの復習レポート作成
10		講義	選曲とメロディー楽器についての考察。メロディーのアレンジをs習得し解説ができる。	選曲とメロディー楽器についての復習レポート作成
11		講義	スコアレイアウトとアレンジのフォーム。記譜法の説明ができる。	記譜法についての復習レポート作成
12		講義	ギターとキーボード(ピアノ)の詳細(ヴォイシング)の書き方。	(ヴォイシング)の書き方の復習レポート作成
13		講義	編曲の手順を理解し説明ができる。	編曲の手順、復習、詳細、そして復習レポート作成
14		講義	期末課題の説明を理解し述べることができる。	期末課題に向けて復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Direction for Song Writing 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚(明るい、暗い)の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを3種類授業外で作成
3		演習	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		演習	ロック、バラード、ポップスの3曲のうちどれかを完成させアレンジしたものを提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方と打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアナライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなどメロディーにどのように関係してるの解釈する
11		演習	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演習	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演習	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演習	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ヴォーカルレコーディング
15		演習	トラックメイカー目線でのミックスを学び色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを実際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	この授業を通して1曲を自分の力で作れるようになる。 楽曲を作るために必要な理論を習得するとを到達目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基本的なトライアドの理解	12音階のメジャースケールを理解、midiキーボードで演奏できるようにする
2		講義	ダイアトニックコードの理解	12音階のダイアトニックコード演奏できるようにする
3		演習	ダイアトニックコードを使ってコード進行を作る	ダイアトニックコードのみで作られている曲を選別しコード進行のパターンをメモしておく
4		演習	セカンダリードミナント、同主調の取り入れ	セカンダリードミナントのコードワークを理解し、理論的分析。 ノンダイアトニックにおけるメロディーの作り方
5		演習	リレイテッドⅡmを取り入れる	リレイテッドⅡmとセカンダリードミナントの関係を理解する
6		講義	課題曲(I-VIⅢ-IV-V)のアナライズ	スタンドバイミーを聴いて採譜する
7		演習	課題曲のメロディーを変えずコード進行を変更	コードとメロディーの関係性を理解する
8		演習	課題曲のコード進行を変更し採譜して提出	コードとメロディーの関係性を理解する
9		演習	ガレージバンドで課題曲のドラムのリズムパターンを打ち込んでみる。	ドラムのことを調べドラムのパターンを3つ覚える
10		演習	Logicにガレージバンドで打ち込んだデータを入れフィルのループを挿入してみる	ドラムのフィルについて研究し3パターン作成し実際に使ってみる
11		演習	Logicを使いベースとギターとキーボードを打ち込んでみる	各楽器の奏法と音色について調べて理解する
12		演習	打ち込んだデータとヴォーカルレコーディングしたデータをラフミックスする。 EQとコンプレッサーの処理をする	ヴォーカルをレコーディングしてみる
13		演習	マスタリング作業の工程を理解、マスタリングの重要性。	各楽器の音量のバランスを再度調整
14		演習	前期のおさらい	DTMの基本、音楽理論まとめ
15		演習	課題曲を打ち込んだものをアレンジし提出	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚(明るい、暗い)の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを3種類授業外で作成
3		演習	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		演習	ロック、バラード、ポップスの3曲のうちどれかを完成させアレンジしたものを提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方と打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなどメロディーにどのように関係しているの解釈する
11		演習	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演習	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演習	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演習	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ウォーカルレコーディング
15		演習	トラックメイカー目線でのミックスを学びり色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを實際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Rock Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤 豊 大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
方法と基準	実技による採点100%						

授業 計画・ 内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。		
2		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
3		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
4		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
5		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
6		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
7		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
8		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
9		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
10		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
11		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
12		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
13		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
14		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習		1~14をまとめてレポート作成		
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。				
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	Rock Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤 豊 大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	R&B Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらい。楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習		1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Chorus Work 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井 康 行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	自身のバンド『T'SJ』でメジャーデビュー。解散後、CM、TV、映画、カラオケ制作等に携わる。						
授業の学習内容	1.ロック、ポップス曲にも対応できるハーモニー感覚の基礎を習得する。 2.コードを使い音感と耳を鍛える 実践に使える講義を実施する。						
到達目標	1.ハーモニーの基本とされる3度のハーモニーを習得する。 2.5.6.7度等の難易度が高いハーモニーを習得する。 3.ユニゾン、オクターブユニゾンのハーモニーを習得する。 4.人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる事ができるようにする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基本である姿勢・呼吸、体幹を学び実践できる。	基本である姿勢・呼吸、体幹を学び実践し動画でチェックする。
2		演習	様々なコードを使い音感を鍛えて実践できる。	様々なコードを使い音感を鍛えて実践し動画でチェックする。
3		演習	コードを使ったハーモナイズを実践できる	コードを使ったハーモナイズを実践し動画でチェックする。
4		演習	基本の3度ハーモニーを理解し実践できる	基本の3度ハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
5		演習	4.5.6.7度のハーモニーを理解し実践できる	4.5.6.7度のハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
6		演習	楽曲を使いハーモニーを理解し実践できる	楽曲を使いハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
7		演習	楽曲を更に深めを理解し実践できる	楽曲を更に深めを理解し実践し動画でチェックする。
8		演習	グループを作り色々な人とハーモニーを理解し実践できる	グループを作り色々な人とハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
9		演習	グループを作り色々な人とハーモニーを理解し実践できる	ロックのリズムでハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
10		演習	ポップスのリズムでハーモニーを理解し実践できる	ポップスのリズムでハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
11		演習	R&Bのリズムでハーモニーを理解し実践できる	R&Bのリズムでハーモニーを理解し実践し動画でチェックする。
12		演習	JAZZのリズムでハーモニーを理解し実践できる	JAZZのリズムでハーモニーを実践し動画でチェックする。
13		演習	JAZZのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践できる	JAZZのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践し動画でチェックする。
14		演習	R&Bのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践できる	R&Bのリズムでハーモニーのアドリブを理解し実践し動画でチェックする。
15		演習	学期末試験及び復習。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			コーラスワークに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Chorus Work 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井 康 行
学科・コース	パフォーマンスアーツ科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	自身のバンド『T'SJ』でメジャーデビュー。解散後、CM、TV、映画、カラオケ制作等に携わる。						
授業の学習内容	1.前期に学んだ内容を更に深め仕事の現場で使える力を養う 2.ア・カペラ含む更に高度な技術を身に付ける 3.譜面を使い初見カトレーニング						
到達目標	1.読譜力、初見力をトレーニングし現場で実践に繋げる力を養う 2.どんな曲にもハーモニーを付けられる実力を付ける 3.ハーモニーを通して、音感、リズム感、自身の歌唱力も向上させる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	課題曲実践を学び実践できる。	課題曲実践を学び実践し動画でチェックする。
2		演習	前週の復習で修正や内容の掘り下げを学び実践できる。	前週の復習で修正や内容の掘り下げを学び実践し動画でチェックする。
3		演習	1人1人課題曲を決めハーモニー付けを学び実践できる。	1人1人課題曲を決めハーモニー付けを学び実践し動画でチェックする。
4		演習	前週の引き続きを学び実践できる。	前週の引き続きを学び実践し動画でチェックする。
5		演習	ア・カペラで音感を学び実践できる。	ア・カペラで音感を学び実践し動画でチェックする。
6		演習	様々な楽曲をア・カペラを学び実践できる。	様々な楽曲をア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
7		演習	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践できる。	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践し動画でチェックする。
8		演習	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践できる。	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
9		演習	グループを作り色々な人とハーモニーを理解し実践できる	前週のア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
10		演習	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践できる。	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
11		演習	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践できる。	ア・カペラを使ってグルーブ感ピッチ感矯正を学び実践できる。
12		演習	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践できる。	少人数～大人数でのア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
13		演習	前週のア・カペラを学び実践できる。	前週のア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
14		演習	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践できる。	クラブやスナップ取り入れてア・カペラを学び実践し動画でチェックする。
15		演習	学期末試験及び復習。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			コーラスワークに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Broadway Seminar 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	齊藤 早 春
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	ゴスペルグループTHE SOULMAGICのシンガーとして国内外でコンサート活動を行う他、Janet Jacksonの世界ツアー日本公演のバックコーラスをはじめ、数多くのメジャーアーティストのレコーディング、テレビ番組やコンサートのバックコーラスとして活躍。						
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける基礎とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に必要な基礎とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
2		演習	イントネーションテクニックをを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。	
3		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。	
4		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。	
5		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。	
6		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。	
7		演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。	
8		演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。。	
9		演習	中間確認テスト及び復習。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
10		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。	
11		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。	
12		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
13		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。	
14		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
15		演習	学期末試験及び復習。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる	
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Broadway Seminar 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	齊藤 早 春
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	ゴスペルグループTHE SOULMATICのシンガーとして国内外でコンサート活動を行う他、Janet Jacksonの世界ツアー日本公演のバックコーラスをはじめ、数多くのメジャーアーティストのレコーディング、テレビ番組やコンサートのバックコーラスとして活躍。						
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
2		演習	高度なイントネーションテクニックを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。	
3		演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。	
4		演習	より深いポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。	
5		演習	より深いポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。	
6		演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。	
7		演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。	
8		演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。。	
9		演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
10		演習	応用のポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。	
11		演習	応用のポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。	
12		演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
13		演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。	
14		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。	
15		演習	学期末試験及び復習。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる	
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】					